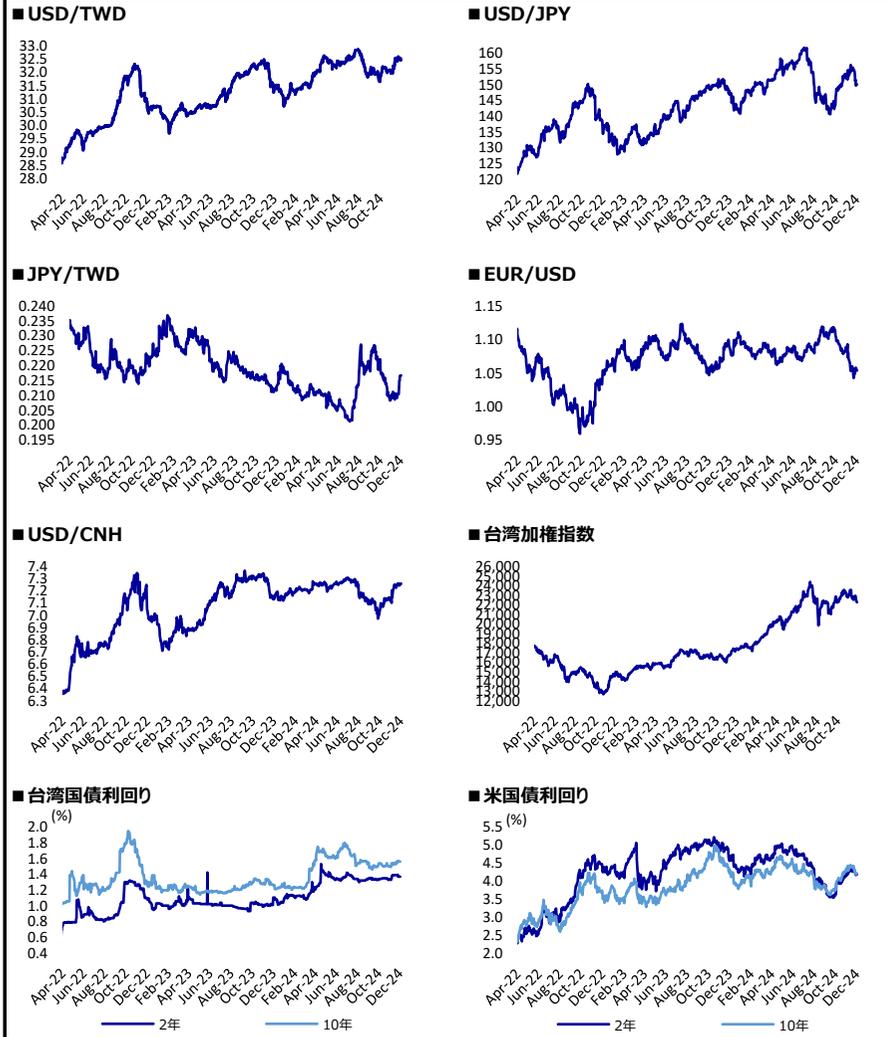


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初11/25は32.550でオープン後、米金利が下落する中、グローバルにドル売りが優勢。その後、台湾株の上昇に伴い、32.485まで下落。11/26は、台湾株の下落に伴う外資によるドル買いや海外ETF投資目的絡みの送金が散見し、一時32.540まで上昇。引けにかけては、輸出業者のドル売りが加速し、32.510でクローズ。11/27は、トランプ氏が関税を強化する考えを示したことで、アジア株が軟調に推移する中、ドル高が進行。午後、台湾株は一段と下落した後、32.534でクローズ。11/28は、大型株の売りが台湾株をさらに押し下げたことで、外資による資金流出がドル買いにつながり、32.521でクローズ。11/29は、台湾株は午前を通して下落したが、午後に入ると下落幅が縮小したことを受け、外資による資金流出や輸出業者によるドル売りが見られ、最終的には前週比0.42%ドル高台湾ドル安の32.457で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は1,014.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初11/25は154.50でオープン後、トランプ氏は財務長官にベッセント氏を指名することを受け、米金利が低下する中、ドル買いが一巡、154円台半ばでレンジ推移。11/26は、トランプ氏がメキシコとカナダからの輸入品に25%、中国にも10%の関税を課すと表明した。海外時間、FOMC議事録では「利下げペースが加速する可能性もある」との文言を受け、米金利の低下を背景に、153.10まで下落。11/27は、トランプ氏が関税を強化すると認識を示したことを受け、リスク回避の円買いが進行。海外時間、発表された米Q3GDPと米10月PCEがほぼ予想通りとなったものの、円買いの流れが継続し、一時150.45まで下落。11/28は、トランプ氏による関税政策への警戒感から、米金利が下落した他、リスク回避の円買いも散見され、151円台後半で上値重く推移。海外時間に入ると、米国休場で流動性が非常に薄い中、151円台半ばで揉み合いの推移。11/29は、東京都区部CPIが予想を上回ったことや、月末の実需フローが入り、日本における追加利上げ期待が強まり、149.55まで下落。海外時間に入ると、植田総裁は追加利上げの時期について「データがオントラックに推移している」という意味では近づいている」との発言が聞かれたことで、最終的には前週比3.28%ドル高円安の149.73で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.300-32.650
今週のドル/台湾ドルは揉み合いの推移を見込む。週末に重要な非農業部門雇用者数や失業率の発表が控える中、ドル/台湾ドルは方向感に欠ける展開となるであろう。米国における利下げ動向に注目が集まる見込み。

■ USD/JPY 予想レンジ：148.00-152.50
今週のドル/円は上値重く推移する予想。先週末に発表された東京都区部CPIが予想を上回ったことや日銀の植田総裁が追加利上げのタイミングが近づいていると述べたことを受け、日本における追加利上げ観測が強まり、ドル/円は上値の重い推移となるだろう。また、非農業部門雇用者数や失業率の発表に注目が集まりそうだ。

今週の予定

12/2 (MON)	日11月製造業PMI、米11月ISM製造業景況指数
12/3 (TUE)	
12/4 (WED)	米11月ADP雇用統計、10月製造業新規受注、11月サービス部門PMI
12/5 (THU)	台湾11月CPI、米10月貿易収支
12/6 (FRI)	米11月非農業部門雇用者数、11月失業率、12月ミシガン大消費者景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。